

研究結果報告書

所属：韓国放送通信大学校 日本学科
翰林大学校 日本学研究所

役職：講師 / HK 研究教授

氏名：金恵淑

題目：持続可能な都市の幸福モデル—都市型地域再生の見直し—

研究を遂行するために「持続可能な都市の幸福モデル」として東京都世田谷区下北沢、神奈川県横浜市、千葉県柏市を訪問した。その地域の市役所の地域再生担当者、市議員、民間団体などをインタビューした。

▶支援型開発としての街づくり：東京都世田谷区下北沢

世田谷区の課題は高齢化、スポンジ化、空き家、賃貸料暴騰などの問題である。特に下北沢の場合、鉄道の地下化による跡地の活用であった。下北沢において、幸せな街づくり成功条件は、個性のある若者が集まれる商業施設、住民が緑地空間を20分ほど歩いて通える生活の場などである。世田谷区には自然環境、文化遺産を守るための住民のよる世田谷トラスト運動の歴史がある。このような住民活動は鉄道沿線街づくりにおいて支援型開発(鉄道会社70%/地域プレーヤー30%)が可能にした要因でもある。支援型開発の例としてポーナストラックがある。発想の転換を通じて魅力ある個人テナント、若い店舗起業家を集める試みをしており、まちの拠点としての役割を担っている。支援型開発事例を通じて住民参加の必要性がわかることができた。

▶地域コミュニティ形成：神奈川県横浜市

横浜市の課題は高齢化、単身高齢者の独立化、人口減少、地域交通、福祉の充実、街のにぎわい創出などである。特に高齢者の移動が問題になっている。横浜市が掲げている都市民が幸せなまちづくりの成功条件は地域コミュニティの形成であることがわかった。横浜市地域開発において、横浜市と地権者が主体になって、1984年設立した(一社)横浜みなとみらい21がある。この団体が中心となって、開発調整を進めている。

▶公・民・学の連携プラットフォーム UDCK：千葉県柏市

柏市の課題は後期高齢者増加、団地再生、地域包括ケアシステム構築などである。柏市の地域再生の目標は公・民・学+データ駆動による柏の葉駅を中心にした地域運営である。また、幸せな街づくりの目標は脱炭素社会、あらゆる世代が健康な街、主治医システムの体制整備などがある。スマートシティ・コンパクトシティ構想において、プラットフォームである(一社)柏の葉アーバンデザインセンター(以下：UDCK)がある。公・民・学の連携でUDCKが主体になって、市民が憩える公共空間であるアクアテラ、鉄道高架沿いに整備された高架下の屋台型飲食街、健康増進のためのウォーカブルデザインなどのプロジェクトを実施した。UDCK事例を通じてプラットフォームの役割を果たす第三セクターの重要性がわかった。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

(1) 題名：支援型開発としての下北沢エリアの鉄道沿線街づくり

지원형개발로서의 시모키타자와(下北沢) 에리어의 철도연선 마을만들기(街づくり)

発表者名：研究責任者 金惠淑

会議名：韓国日本研究団体第12回(韓国日本学会第106回)国際学術大会

日時：2023年8月25日/09:30-18:00

場所：翰林大学校

(2) 題名：官民学都市開発－柏の葉とルースキー島を中心に－

민관학 도시 개발－카시와노하와 루스끼섬을 중심으로－

発表者名：共同研究者 李柱衍

会議名：韓国日本研究団体第12回(韓国日本学会第106回)国際学術大会

日時：2023年8月25日/09:30-18:00

場所：翰林大学校

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

▶ 論文投稿計画：研究責任者 金惠淑

(1) 2024年9月-10月：支援型開発としての下北沢エリアの鉄道沿線街づくり

(2) 2025年以降：公・民・学の連携プラットフォームとしての柏市UDCKの役割

(3) 2025年以降：持続可能な都市の幸福モデル－都市型地域再生の見直し－

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)